

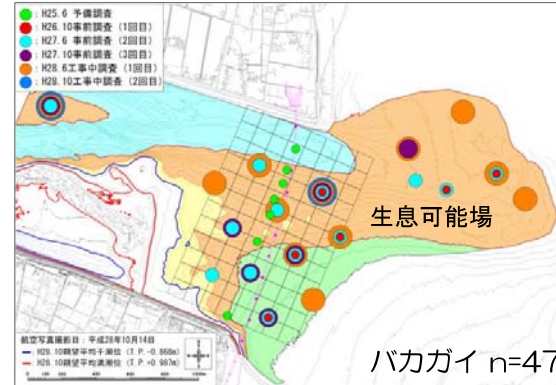
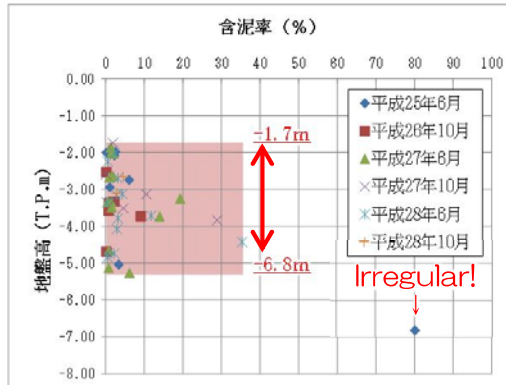
■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種のモデル化～



区分1の指標種のモデル化は、区分1が地盤高に関係なく砂質であることから、地盤高のみで生息可能場の予測を行った。

バカガイ n=47

- T.P.-6.8m~-1.7mに出現
- 区分1に対して約89.2%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は36地点

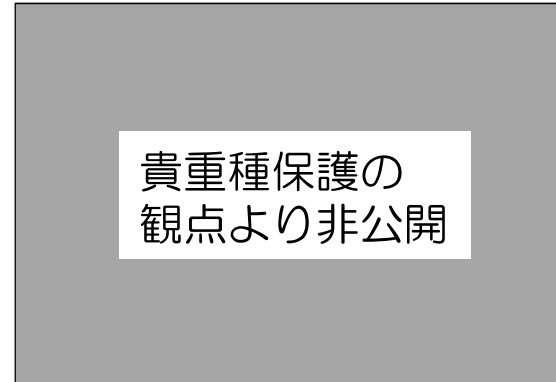
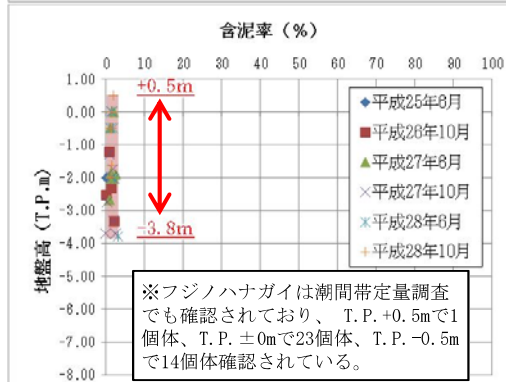


※ハビタット区分1の範囲から各種が出現した地盤高の範囲を抽出

- ①区分1の面積 : 1,717,321m²
- ②生息可能場面積 : 1,531,993m²
- ※区分1に対して89.2%

フジノハナガイ n=22

- T.P.±0.5m~-3.8mに出現
- 区分1に対して約62.7%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は17地点

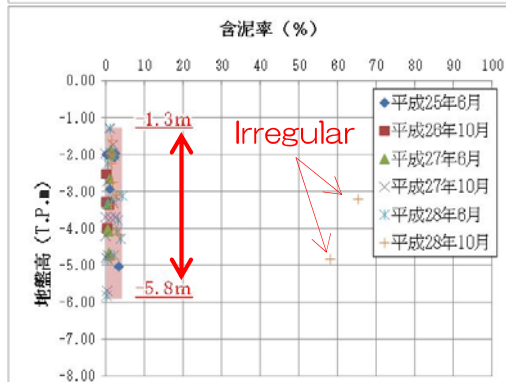


貴重種保護の観点より非公開

- ①区分1の面積 : 1,717,321m²
- ②生息可能場面積 : 1,004,097m²
- ※区分1に対して58.5%

ヒサシソコエビ科 n=57

- T.P.-5.8m~-1.3mに出現
- 区分1に対して約93.9%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は56地点



- ①区分1の面積 : 1,717,321m²
- ②生息可能場面積 : 1,612,777m²
- ※区分1に対して93.9%

